

細胞に適用するために、その形状や電氣的性質を定量的に検索した。その結果、結合抵抗のない状態で1個の細胞に刺入して外部極より通電、および内部極を介しての電位の誘導が可能であることが判明したので、これを心室筋線維に適用し、形質膜の電流電圧関係を求めた。

4. ドック入院者の高尿酸血症

(整形外科) ○森崎直木・田島規子・山本喜美子
(生化学・中検) 降矢 啓

近年、従来わが国で稀とされていた痛風が、かなり認められることが注目されて来た。そこでドック入院者の血中尿酸量を Folin法により測定して得られた結果を考察した。

男63名、女19名計82名について、正常血中尿酸値の上界を、男 6.0mg/dl、女 5.0mg/dl とすると、男の35%、女の36%、計29名、全体の 1/3 強にあたる高尿酸血症を認められた。

このうち2名(男性)は確実に痛風と断定することはできたが、残りのものについては、高尿酸血症を惹起する治療剤 Chlorthiazide, Pyrazinamide などとの関連をみとめず、また細胞核の破壊の盛んな血液疾患もみられなかった。したがって大部分の高尿酸血症の原因は明らかではないが、痛風の asymptomatisches Stadium などとも想像され、今後の経過を追及して、痛風の早期診断の拠り所としたい。

5. 〔症例検討会〕

乳幼児の下血を主訴とする 2, 3 の症例

司会 織畑秀夫教授

追って全文を本誌に掲載する。

6. 〔綜説〕

大脳各領域の血管構築特性について

(病理) 武石 詢

脳は臓器機能上種々の点において他の実質臓器と趣を異にしているが、中でもその機能の局在という点では他臓器には全く類例を見ないところである。この点に関しては、従来主として神経細胞学的観点から多くの研究がなされて来たが、未だその全貌を明らかにするには至っていないように見える。

私は、これまで幾つかの臓器について、それらの血管構築特性と臓器機能の特異性との関係を観察して来たが、脳においてもその地域的な機能差がそれぞれの地域における血管構築の特異性と可成りの関聯性を持つていないのではないかという推定の下に、先ず大脳の血管構築を巨視的規模において観察し、その諸地域においてそれぞれ特徴ある血管構築像を認めたので、その概要について報告した。

吉岡研究奨励金授与式

38年度受賞者 藤井 儔子(薬理)
大田 豊・永野 貞子(解剖)

37年度受賞者の研究発表

本態性高血圧症の臨床的研究 小林成子(三神内科)
Androgenic steroid の作用機序と性、年齢との関係
藤井儔子(薬理)

7. 本態性高血圧症の臨床的研究

(三神内科) 小林 成子

本態性高血圧症の原因に関しては現代全くその解決をみていない。当教室では、薬物テストおよび Catecholamine 代謝面より本症の成因を追求するため本研究を行なった。

対象および方法：当内科入院および外来患者のうち、30才以上の男女で、収縮期圧 150mmHg以上、拡張期圧90mmHg以上を示す本態性高血圧症を比較的高年者本態性高血圧症とし、30才以下6才までの男女で高血圧を示すものを若年性本態性高血圧症とした。之等の症例に Adrenolytica たる Regitine および Adrenaline 分泌刺激剤としての Mecholyl を使用して薬物テストを行ない、尿中 Catecholamine を測定し、眼底検査、心電図、腎機能、肝機能、尿蛋白、血清電解質等の臨床検査を行なった。なお対照として高年者若年者各々10名を選んだ。

成績：1) 比較的高年者本態性高血圧症について Regitine test の結果はA群(Regitine test 陽性のもの)、B群(最高血圧のみ35mmHg以上、下降するもの)、C群(Regitine test 陰性のもの)の3群に分類し得た。このうち Regitine test 陽性のA群には眼底動脈硬化および腎機能障害の強いものが多く、B群には眼底動脈硬化の強いものが認められた。Mecholyl test ではS型(sympathetic hyperreactor)は1例もなく、すべてN型(intermediate group)およびP型(sympathetic hyporeactor)であつた。尿中 Catecholamine 値は、A群では Adrenaline 量の増加、B群では Noradrenaline 量の増加を示すものの存在を認めた。

2) 若年性本態性高血圧症について

Regitine test の結果は高年者群と異なり、A、B、C群の他にD群(最低血圧のみ25mmHg以上、下降するもの)、E群(最高血圧のみが注射前の血圧より上昇するもの)が認められた。Mecholyl test では、高年者群と同様S型はなく、すべてNおよびP型であつた。尿中 Catecholamine 値はすべて正常範囲内であつた。

3) α -methyl-DOPA の血圧下降作用について